

2020.10.18 年間第 29 主日

## 神の一手、イエスの一手

マタイ福音書 22:15-22

(そのとき、) ファリサイ派の人々は出て行って、どのようにしてイエスの言葉じりをとらえて、罠にかけようかと相談した。そして、その弟子たちをヘロデ派の人々と一緒にイエスのところに遣わして尋ねさせた。「先生、わたしたちは、あなたが真実な方で、真理に基づいて神の道を教え、だれをもはばからない方であることを知っています。人々を分け隔てなさらないからです。ところで、どうお思いでしょうか、お教えてください。皇帝に税金を納めるのは、律法に適っているでしょうか、適っていないでしょうか。」イエスは彼らの悪意に気づいて言われた。「偽善者たち、なぜ、わたしを試そうとするのか。税金に納めるお金を見せなさい。」彼らがデナリオン銀貨を持って来ると、イエスは、「これは、だれの肖像と銘か」と言われた。彼らは、「皇帝のものです」と言った。すると、イエスは言われた。「では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」

彼らはこれを聞いて驚き、イエスをその場に残して立ち去った。

### 説教

きょうは、ふだんは敵対しているファリサイ派とヘロデ派が手を組み、イエスを罠にかけようとして税金問題をしかけたと背景の説明があり、イエスはそのたくらみに気づいて見事な切り返しで応答したという内容です。

将棋にたとえれば相手の王手飛車取りの攻めにイエスは見事な一手で返した、というはなしになります。将棋は縦9×横9=81ますの盤上でコマを動かして相手の王将を取りあうゲームです。ファリサイ派とヘロデ派は将棋のたとえでいえば、八十一ますの盤面の上で税金問題を考え、納税を認めなければローマへの反逆者であり認めればユダヤ民衆の信望を失う、イエスの答えがイエスだろうがノーだろうが詰んでしまう「王手飛車取り」をでっちあげま

した。イエスの返答はこうでした。

**皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。マタイ 22:21**

イエスはファリサイ派やヘロデ派とは同じ処にいますが、違った世界を悟っています。イエスは神の国の支配の中に生きています。八十一ますのゲームの世界にいないのです。

**彼らはこれを聞いて驚き、イエスをその場に残して立ち去った。マタイ 22:22**

ファリサイ派、ヘロデ派の偉いところはイエスのことばに「驚く」ことができることです。自分たちのでっちあげたゲームの世界が嘘の世界で、彼らはほうとうは神の世界があることを知っている、理解しているからこそ「驚く」ことができます。驚いて立ち去った人のなかにはイエスに立ち返った人もいたことでしょう。ひるがえって、現代に生きるわたしたちはどうでしょう。イエスのことばに「驚く」ことはできるでしょうか。皇帝もいなければ、神もいない世界だと嘘ぶいていないでしょうか。

イエスは神聖政治を提案しているわけではありません。また、政治と宗教を切り離す政教分離を唱えたわけでもありません。

わたしたちはいつまでも自分たちを縛りつける虚構の世界にとどまっているわけにはいきません。イエスのことばに驚き、そしてそれに応えることができるように祈りましょう。礼拝のなかで朗読されるイエスのことばを日曜日の出来事とするだけでなく生活のなかで生きることばとしてください。キリストを着るわたしたちとなりますように。

-----